

第5回 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

◎第5回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会が平成21年2月14日にユニオンプラザ福井にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 川崎将生所長の挨拶

委員長挨拶



福原輝幸委員長

委員紹介



第5回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会は、水環境、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、陸産貝類、魚類、陸上昆虫類、植物、付着藻類、生態系、河川物理環境を担当分野とされる10人の委員で検討されました。

第5回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 委員名簿

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
	◎福原 輝幸	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
哺 乳 類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県自然保護課 企画主査
鳥 類 (鳥類部会)	松村 俊幸	まつむら としゆき	福井県自然保護課 主任
	久保上 宗次郎	くぼかみ そうじろう	猛禽類研究家
	林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 理事
	上木 泰男	うえき やすお	日本鳥類保護連盟 専門委員
爬虫類 両生類 陸産貝類	長谷川 巖	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
魚 類 生態系	加藤 文男	かとう ふみお	元仁愛女子短期大学 教授
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しものや とよかず	日本鱗翅学会 会員
底生動物	前田 正紀	まえだ まさのり	仁愛女子短期大学 准教授
植 物 生態系	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元福井市自然史博物館 館長
付着藻類	安達 誘	あだち さそひ	福井陸水生物研究会 会員
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学大学院工学研究科 准教授

※◎は委員長。

※松村委員、久保上委員、林委員、前田委員はご欠席。

第5回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・ 水環境について
- ・ 河川域に係る動植物、生態系について
- ・ 人と自然との触れ合いの活動の場について
- ・ 環境影響評価準備書（素案）について

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

指摘内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁りがダムにより増加するのではなく、濁質が集中することがSS上昇のメカニズムであるので、管理上の負担と効果の面からも全ての洪水に対して再導水を行うのではなく、有効な洪水に限り行うことが重要である。 	<p>今後もモニタリング調査を実施し、その結果を踏まえて、再導水する洪水規模や運用方法などを詳細に検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ アジメドジョウについては、濁水耐性に関する知見がないため保全措置を実施することとしているが、濁水耐性がどの程度あるのか事前に確認する必要はないか。 	<p>専門家の指導・助言のもと、事前に検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁りが大きくなる区間におけるアジメドジョウの分布状況はどの程度か。また、環境保全措置としてあげている濁水からの避難場所の整備は具体的にどのように考えているか。 	<p>アジメドジョウは、濁りが大きくなると予測されるダム下流の部子川で確認されている。避難場所については、護岸への設置を考えているが、アジメドジョウの生態や分布を踏まえ、設置箇所や構造について今後詳細に検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験湛水により水没する区域の樹木は伐採されるのか。 ・ 生態系への影響の観点から、伐採の時期や方法、伐採の植生の遷移についてはどのように考えているか。 	<p>事業者が実行可能な範囲で、伐採区域を最小限にとどめることや、伐採を計画的、段階的に実施し、急激な環境変化による影響を低減するよう配慮していきたい。また、ダム洪水調節地内の植生についてはできるだけ早期に回復するように植栽することなども検討していきたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁水への影響については、ヤリタナゴやメダカについても配慮してもらいたい。 	<p>濁水からの退避場所の整備については、アジメドジョウ以外の配慮すべき種についても利用できるよう検討していく。</p>

指摘内容	事務局回答
<ul style="list-style-type: none"> 流水型ダムの特徴として、河川の連続性が保たれることがあげられるが、足羽川においてダム上下流の連続性を配慮すべき種は想定されるか。 	<p>自然由来の回遊魚については、ダム堤体付近では確認されていないが、ダム堤体の位置する部子川に生息する種については、魚道を設置することで、現状以上に連続性を遮断することがないように配慮していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 湿地性の植物の環境保全措置として湿地環境の整備をあげているが、植物だけでなく、止水性の昆虫類等にも配慮したものを整備できないか。 	<p>ご意見を踏まえ、検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ダム洪水調節地内に草地や裸地が出現することから、ニホンジカやイノシシが増加し、周辺の農作物や植林への被害が出る可能性も考えられる。ダム事業による影響を予測することは困難であるが、被害が出た場合の対策は検討しているか。 	<p>ご意見を踏まえ、配慮事項や事後調査について検討する。</p>